



自然と交歓する芸術祭

松戸アートピクニック

～車窓からのアートとの出会い～ について

今秋、21世紀の森と広場で、松戸アートピクニックを初開催します。

1. 目 的

文化の香るまちづくりの一環として、市の文化・芸術の振興を図るため、「千駄堀の自然を守り育てる」という21世紀の森と広場のコンセプトを尊重しつつ、公園のポテンシャルおよびランドスケープを活用した芸術祭を開催します。

2. 企画概要

21世紀の森と広場を舞台とする芸術祭として、高校の美術教科書に紹介されている方など有名作家9人による屋外展示等を、土屋公雄氏が総合監修します。

自然豊かな公園の特性を生かし、美術だけでなく音楽や映像、パフォーマンス、食も含めて、五感で感じる体験参加型の芸術祭です。

特徴として、公園の近くをJR武蔵野線が通っており、また、都市計画道路3・3・7号横須賀紙敷線が貫通していることから、「車窓から展望できる」という点を今回のアートピクニックのキーワードとしています。

また、本市の子どもたちに全国レベルで活躍する作家の制作過程と作品に触れて頂き、イベントにスタッフとして参加して頂ける事が大変有意義だと考えております。

3. 主 催

松戸アートピクニック実行委員会

(愛知県立芸術大学・聖徳大学・千葉大学・東京藝術大学及び松戸市からなる組織)
(松戸市共催)

4. 期 間

平成29年10月28日(土)～11月5日(日) 開園時間中

※公園開園時間…10月中 午前9時から午後5時まで

11月中 午前9時から午後4時30分まで

※10月上旬より公園で各作家による制作を開始します。是非、過程からご覧ください



さい。

※ワークショップによっては、閉園時間中に実施するものもございます。

5. イベントスケジュール

- 10月28日(土) ①作家による作品紹介やツアーなどの内覧会(取材可)
②閉園後のオープニングセレモニー(取材可)
③大成哲雄氏ワークショップ(広報まつど9月15日号で募集)
- 10月29日(日) ①カレーキャラバン(公園で収穫した野菜を使って100人以上がカレーを食べる)
②松井紫朗氏ワークショップ(広報まつど9月15日号で募集)
③公園や芸術、自然・生命・宇宙をテーマとしたシンポジウム(事前申込み制)
- 10月30日(月)～11月5日(日)
①展示(スタッフによる作品紹介、説明など)
②高橋匡太氏の作品への参加(当日受付)
- 11月5日(日) ①松井紫朗氏ワークショップ(当日受付)
②閉会・展示終了

※上記開催スケジュール概要は予定のため、今後変更する場合がございます。
予めご了承ください。

6. 会 場

21世紀の森と広場 別紙に詳細を記載

7. 招待作家 別紙に詳細を記載

北川 貴好 | KITAGAWA Takayoshi

小林 耕平 | KOBAYASHI Kohei

鈴木 康広 | SUZUKI Yasuhiro

高橋 匡太 | TAKAHASHI Kyota

田原 唯之 | TAHARA Tadayuki

橋本 典久 | HASHIMOTO Norihisa

松井 紫朗 | MATSUI Shiro

大成 哲雄+聖徳大学大成ゼミ | ONARI Tetsuo + Onari Seminar, Seitoku University

カレーキャラバン | CURRY CARAVAN

【問い合わせ先】

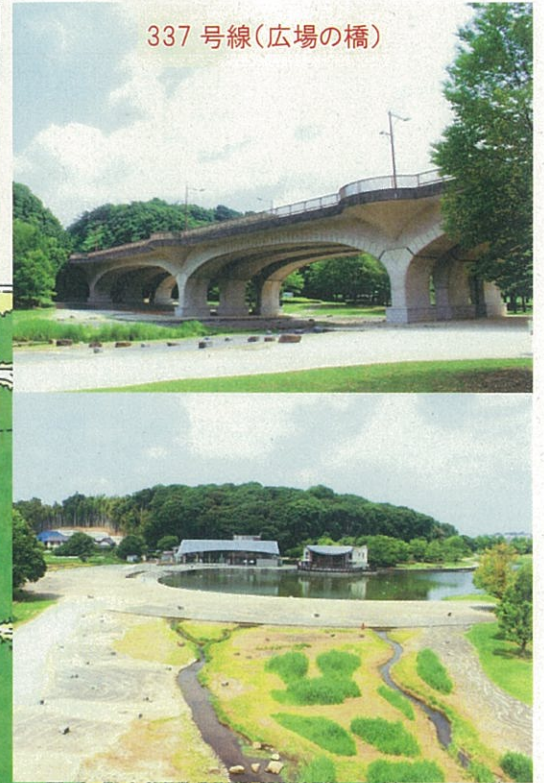
街づくり部公園緑地課 21世紀の森と広場管理事務所



会場マップ



337号線(広場の橋)



JR武蔵野線





<招待作家 一覧>

北川 貴好 | KITAGAWA Takayoshi



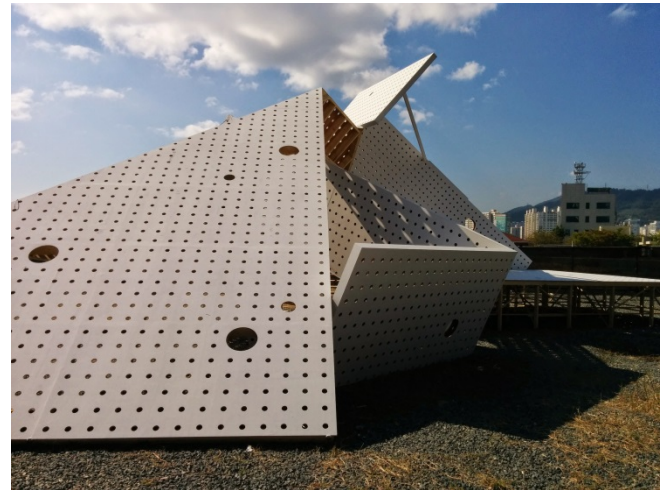
1974 年大阪府生まれ。1999 年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。主な展覧会に、2012 年「フロアランドスケープ—開き、つないで、閉じていく」(アサヒ・アートスクエア、東京)、2015 年「未見の星座〈コンステレーション〉—つながり／発見のプラクティス」(東京都現代美術館)、2016 年「地上階には、つながらぬ邸宅」(池袋エリア、東京)。著書に、『北川貴好 フロアランドスケープ—開き、つないで、閉じていく』(藪前知子・泉 太郎・新川貴詩との共著、2012 年、アサヒ・アートスクエア)。環境や建物自体に手を加え空間そのものを新しい風景へと変換させていく作品を制作している。

<http://www.takayoshikitagawa.com>



「フロアランドスケープ」
2012 年(「フロアランドスケープ—開き、つないで、閉じていく」アサヒ・アートスクエア、東京)
撮影:太田拓実

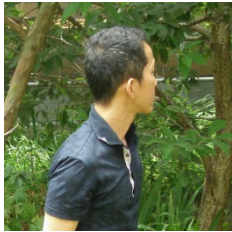
「Opening Surface」
2014 年(「チャンウオン彫刻ビエンナーレ」韓国)



「水／物質／自然が再生し、繋がっていく土地」
2009 年(「水と土の芸術祭」新潟市赤塚砂丘)



小林 耕平 | KOBAYASHI Kohei



1974年埼玉県生まれ。1999年愛知県立芸術大学美術学部油画科卒業。主な展覧会に、2015年「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち」(国立新美術館、東京)、2016年「あいちトリエンナーレ 2016 虹のキャラヴァンサライ」(愛知)、2017年小林耕平×高橋耕平「切断してみる。—二人の耕平」(豊田市美術館、愛知)。物や事象を鑑賞することで、どのような経験をつくり出すことができるのか、をテーマに制作。ひとつのオブジェクトを異なる方法で鑑賞すれば、同じ対象を見ているのにも関わらず、経験が異なる—今回は、鑑賞方法とオブジェクトの組み合わせによる作品を複数設置する予定。

<http://www.yamamotogendai.org/japanese/artists/kohei-kobayashi>



「三本のしわ ニッポンの豚足 どこまでも転がるロースト」
2015年(「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち」国立新美術館、東京)
撮影:大西正一+中川 周



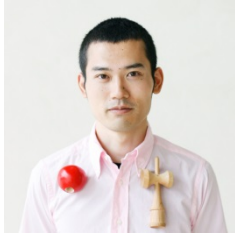
「東・海・道・中・膝・栗・毛」
2016年(「あいちトリエンナーレ 2016 虹のキャラヴァンサライ」豊橋開発ビル、愛知)
撮影:大西正一



「神村・福留・小林・切断」
2017年(小林耕平×高橋耕平「切断してみる。—二人の耕平」豊田市美術館、愛知)
撮影:大西正一



鈴木 康広 | SUZUKI Yasuhiro



撮影：中川正子

1979年静岡県生まれ。2001年東京造形大学デザイン学科卒業。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科准教授。東京大学先端科学技術研究センター中邑研究室客員研究員。主な展覧会に、2010年「瀬戸内国際芸術祭 2010」(香川)、2014年「近所の地球」(水戸芸術館 現代美術ギャラリー、茨城)、2016年「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ 2016」(Somerset House、ロンドン、イギリス)。主な受賞に、2001年NHK Digital Stadium デジスタアワード 2001 インタラクティブ部門 最優秀賞・デジスタアワード 2001 最優秀賞、2002年フィリップモリス・アートアワード大賞、2015年 2014 毎日デザイン賞。著書に、『まばたきとはばたき』(2011年)、『近所の地球』(2015年、ともに青幻舎)。日常の見慣れた事象を独自の「見立て」によって捉え直す作品を制作。公共空間でのコミッションワーク、大学の研究機関や企業とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。

<http://www.mabataki.com>



「遊具の透視法」2001年
撮影：川内倫子



「ファスナーの船」
2010年(「瀬戸内国際芸術祭 2010」香川)



「大きな空気の人」
2014年(「鈴木康弘『見立て』の実験室 | オープニング・プログラム《大きな空気の人》あらかわ！」金沢 21 世紀美術館 デザイン・ギャラリー、石川)
撮影：木奥恵三 画像提供：金沢 21 世紀美術館



高橋 匡太 | TAKAHASHI Kyota



撮影：村上美都

1970 年京都府生まれ。1995 年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。主なプロジェクトに、2003 年「築城 200 年記念二条城ライトアップ」(京都)、2008 年「いろとりどりのかけら」(十和田市現代美術館、青森)、2014 年「東京駅 100 周年記念ライトアップ」。主な受賞に 1995 年キリンコンテンポラリー・アワード '95 最優秀作品賞、2010 年京都市芸術新人賞、2017 年照明学会照明普及賞。光や映像によるパブリック・プロジェクション、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行っている。「夢のたねプロジェクト」、「ひかりの実」、「ひかりの花畑」、「Glow with City Project」など大規模な参加型アートプロジェクトも数多く手がけている。

<http://www.kyota.jp>



「いろとりどりのかけら」
2008 年(十和田市現代美術館、青森)
撮影：北村光隆

「Gift for Frozen Village 2014」
2014 年(「越後妻有 雪花火」ナカゴグリーン
パーク、新潟)
撮影：村上美都



「HOPE 三陸・横浜ひかりの実交換プロジェクト」
2011 年(山下公園、神奈川)
撮影：村上美都



田原 唯之 | TAHARA Tadayuki



1981年東京都生まれ。2007年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。主な展覧会に、2013年「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2013」(六甲オルゴールミュージアム、兵庫)、2015年「Capture Another Infrastructure」(Treasure Hill Artist Village、台北、台湾)、2016年「としまミュージアム」(豊島区旧庁舎、東京)。主な受賞に、2014年平成26年度時代の文化を創造する新進芸術家育成事業、2016年KEAT 小砂環境芸術祭 2016大賞。日常を形作る風景とそれを取り巻く諸要素の関係性を捉え直し、これらを同時に浮かび上がらせることで、一つの風景に対する多様な主体的感情の喚起と、それらに依拠した可塑的で暫定的な場所性の獲得を試みる。

<http://tadayukitahara.com>



「可塑的鉱物都市研究」
2016年(「としまミュージアム」豊島区旧庁舎、東京)
Photo:KATO Takafumi



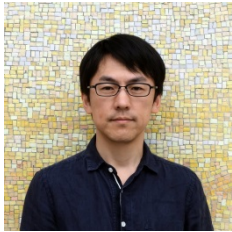
「暗黙知としてのフォリー」
2014年(「Folly Trial」浅草文化観光センター、東京)



「呼吸」
2008年(「アートキュメント2008 森と街の交差点—あわら市・環境アートコンペグランプリ受賞作品展」あわら市内-金津創作の森、福井)



橋本 典久 | HASHIMOTO Norihisa



1973 年愛知県生まれ。1998 年武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。2000 年筑波大学大学院芸術研究科総合造形分野修了。明治大学総合数理学部特任講師。武蔵野美術大学映像学科非常勤講師。主な展覧会に、2006 年「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006」(新潟)、2011 年「橋本典久の世界 虫めがねと地球儀」(竹中工務店ギャラリーA4、東京)、2016 年「自然と美術の標本展」(横須賀美術館、神奈川)。主な受賞に、1999 年キリンコンテンポラリー・アワード '99 奨励賞、2003 年第 7 回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞、2004 年第 8 回文化庁メディア芸術祭アート部門奨励賞(橋本典久+scope)。見えていそうで見えていないものをシンプルで力強い視覚作品として制作している。

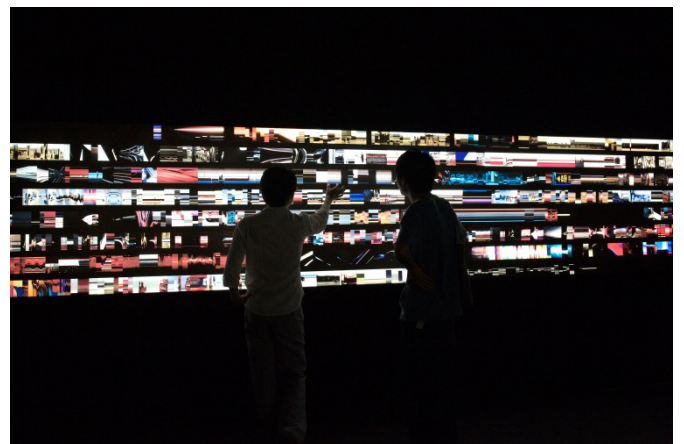
<http://zeroworks.jp>



「Panorama Ball」



「超高解像度人間大昆虫写真[life-size]」
©橋本典久+scope
撮影：光齋昇馬



「Breath」
撮影：光齋昇馬



松井 紫朗 | MATSUI Shiro



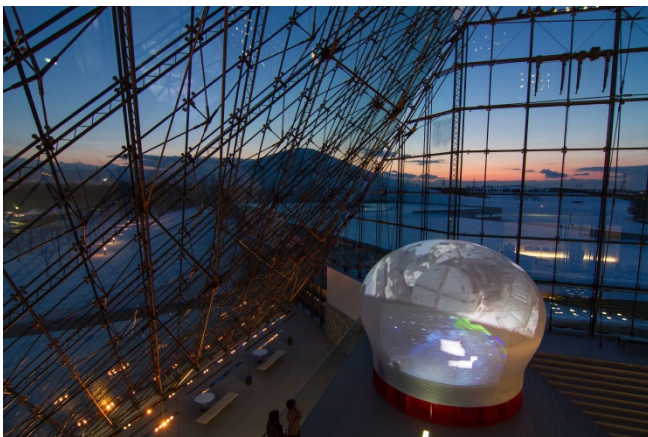
1960 年奈良県生まれ。1986 年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。京都市立芸術大学美術学部教授。主な展覧会に、2006 年「Jonah's Green」(Museum Haus Esters、クレーフェルト、ドイツ)、2011 年「亀がアキレスに言ったこと—新しい世界の測定法」(豊田市美術館、愛知)、2013 年「ココソコノアイダ」(札幌宮の森美術館、北海道)。主な受賞に、1992 年第 3 回五島記念文化賞美術新人賞、1994 年第 4 回タカシマヤ文化基金 新鋭作家奨励賞、2001 年宇部市生施行 80 周年・野外彫刻 40 周年記念賞。著書に『宇宙作庭記—宇宙環境における「庭」の創作研究』(井上明彦・吉富 進との共著、2006 年、科学研究費補助金研究成果報告書)。様々な素材を用い、人間の知覚や空間認識に揺さぶりをかける作品を制作。JAXA と共同で、宇宙での庭作り、「宇宙庭」や容器に詰めた宇宙空間の持ち帰り、「Message in a Bottle」を実施している。2014 年からはその容器を手にして、感じたことや考えたことを書きとめる地上でのミッション、「手に取る宇宙—Message in a Bottle」を展開している。

<http://www.shiromatsui.com>

<http://www.m-in-a-bottle.org>



「手に取る宇宙 地上ミッション」
2014 年(東大寺、奈良)
撮影:福永一夫



「手に取る宇宙 地上ミッション」
2015 年(モエレ沼公園、北海道)
撮影:小牧寿里



「ナルシスの滝」
2007 年(「第 22 回現代日本彫刻展」宇部市野外彫刻美術館、山口)
撮影:山本 糾



大成 哲雄+聖徳大学大成ゼミ | ONARI Tetsuo + Onari Seminar, Seitoku

University



大成哲雄／1965年東京都生まれ。1994年東京藝術大学大学院修了。聖徳大学児童学部教授。主な展覧会に、2006,09,12年「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(新潟)、2010,11年「松戸アートラインプロジェクト」(千葉)、2014年「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 2014」(千葉)。地域や教育機関などでさまざまな人々と協力しアートプロジェクトを展開。特に近年は松戸を中心に活動を行う。2008年から聖徳大学と地域が行っている「アートパーク・プロジェクト」は10年継続している。子どもや大学生を交えたプロジェクトはアートによるコミュニケーションや実体験の重要性を説きながらも、現実と非現実を往来するファンタジーの様相をもつ表現が多い。多くの人が親しめるアートの表現を実践研究している。



「上鰻池名画館」
2009,12年 大成哲雄+竹内美紀子(「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」新潟)



「お米屋さんプロジェクト」
2010年 大成哲雄+聖徳大学大成ゼミ(「松戸アートラインプロジェクト」千葉)



「内田百鬼夜行」(部分)
2014年 大成哲雄(「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 2014」千葉)



カレーキャラバン | CURRY CARAVAN



江口亜維子／1981 年石川県生まれ。加藤文俊／1962 年京都府生まれ。主な展覧会に、2012 年「水と土の芸術祭」(新潟)、2013 年「アート田辺 2013」(和歌山)、2016 年「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」。受賞に、2015 年グッドデザイン賞(コミュニケーションの場を生み出す活動)。著書に、『つながるカレー コミュニケーションを「味わう」場をつくる』(2014 年、フィルムアート社)、『まだまだつながるカレー』(2016 年、ともに木村健世との共著)。全国各地のまちへ出かけ、その場所で調達した食材とその場所に居合わせた人びとの知恵をまぜあわせ、その日、その場かぎりのカレーをつくり、みんなで食べるプロジェクト。

<http://curry-caravan.net>



CURRY CARAVAN 実施風景

CURRY CARAVAN 実施風景



CURRY CARAVAN 実施風景